

先生各位

検査に関するご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、下記の項目におきまして、検査に関するご案内を申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

● 新規検査項目

《受託開始日》 令和2年3月30日(月)受付分より

《検査要項》(1)

検査項目名称	FGF23
検査コード	0602
JLAC10	4Z323-0000-023-052-01
診療行為コード	160216750
検体量	血清 0.5mL
保存・容器	必凍・A1→A2
実施料(判断料)	788点(生化I)
所要日数	3～8日
検査方法	CLEIA法
基準値	30.0 pg/mL 未満
実施施設	LSIメディエンス

保険収載名称：FGF23

保険注釈：FGF23は、CLEIA法により、FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断時又は治療効果判定時に測定した場合に限り算定する。

ただし、診断時においては1回を限度とし、その後は腫瘍性骨軟化症の場合には腫瘍摘出後に1回、薬剤性の場合には被疑薬中止後に1回を限度として算定する。

《 解 説 》

FGF23 (Fibroblast growth factor 23: 線維芽細胞増殖因子23) は、アミノ酸からなる蛋白質で血中リン濃度の調節を行うホルモンです。主に骨細胞から分泌され、腎臓からのリン排泄促進やビタミンD活性の抑制などを行っています。

FGF23産生腫瘍による腫瘍性骨軟化症などの低リン血症においては高値を示しますが、ビタミンD欠乏やビタミンD代謝障害、腎尿細管異常、リン欠乏を伴う低リン血症性くる病・骨軟化症においては低値を示します。

本項目は、FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断補助に有用です。

《 注 意 》

- ・ビオチンは 50ng/mL まで測定値に影響は認めませんが高用量のビオチンを投与している患者の検体では測定値に負の影響を与える可能性があります。
- ・急速凝固管による採血は、低下傾向となりますので使用を避けてください。
- ・低リン血症を示すくる病・骨軟化症において、測定値が 30pg/mL 以上の場合は FGF23 関連低リン血症性くる病・骨軟化症が疑われます。

《 検査要項 》 (2)

検査項目名称	メタネフリン分画	メタネフリン分画 (クレアチニン換算値)
検査コード	0133	0570
JLAC10	4E040-0000-004-205-00	4E040-0000-001-205-00
診療行為コード	160137250	
検体量	酸性蓄尿 2.0mL	尿 2.0mL
保存・容器	必凍・U1	
実施料 (判断料)	227 点 (生化Ⅱ)	
所要日数	5 ~ 8 日	
検査方法	LC-MS/MS 法	
基準値	メタネフリン: 0.04~0.19 ノルメタネフリン: 0.09~0.33 mg/day	設定なし (μg/mg・CRE)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・6N 塩酸 20mL を入れ 24 時間蓄尿 (pH3 以下) し、混和後必要量を凍結保存 ・24 時間蓄尿量を明記 	採尿後、直ちに凍結保存
実施施設	エスアールエル	

保険収載名称: メタネフリン・ノルメタネフリン分画

《 解 説 》

メタネフリンおよびノルメタネフリンは、ノルアドレナリンおよびアドレナリンの中間代謝産物であり、尿中および血中では遊離型および硫酸抱合型として存在します。メタネフリンおよびノルメタネフリン、またはその和である総メタネフリンは、カテコールアミンの生成、分泌を反映し、褐色細胞腫、交感神経芽腫の診断、治療効果の判定、経過観察に用いられます。

● 検査内容変更

《変更日》 令和 2 年 3 月 31 日（火）受付分より

《変更内容》

総合検査案内	検査コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.4	0215	CK-MB (CPK-MB) 【ECLIA 法】	報告書 印字名称	CK-MB 定量	CK-MB ECLIA法
			項目略称 (ANK)	CK-MBQ	CKMBEC
			会計名称	CK-MB 定量	CK-MBECLIA
			顧客端末 用略称	CK-MB 定量	CK-MB MEIA
P.24	6743	トピラマート 【薬物分析検査】	有効 治療濃度	Trough 5.0~20.0 μg/mL	設定なし
P.25	0702	フェノバルビタール*1 【薬物分析検査】		10.0~40.0 μg/mL	15.0~35.0 μg/mL
	0704	カルバマゼピン*1 【薬物分析検査】		4.0~12.0 μg/mL ※他の抗てんかん薬 併用時は 4.0~8.0 μg/mL	4.0~10.0 μg/mL
	0769	ゾニサミド 【薬物分析検査】		Trough 10.0~30.0 μg/mL	10~30 μg/mL
	5042	クロバザム 【薬物分析検査】		Trough クロバザム： 30.0~300.0 ng/mL デスメチルクロバザム 300.0~3,000.0 ng/mL	設定なし
6739	レベチラセタム 【薬物分析検査】	検査方法	LC-MS 法	LC-MS/MS 法	
		有効 治療濃度	Trough 12.0~46.0 μg/mL	設定なし	
P.33	7052	アルドステロン/ レニン活性比	最小 報告値	レニン活性： 0.1 ng/mL/hr 未満	レニン活性： 0.1 ng/mL/hr 以下
	7053	アルドステロン/ レニン定量比	所要日数	4 ~ 8 日	7 ~ 10 日
			最小 報告値	レニン定量： 2.0 pg/mL 未満	レニン定量： 2.0 pg/mL 以下
P.39	2627	レニン定量 (ARC)	最小 報告値	2.0 pg/mL 未満	2.0 pg/mL 以下

総合 検査案内	検査 コード	検査項目名称	変更内容	変更後	変更前
P.38	2613	HCG (ヒト絨毛性ゴナ ドトロピン) 定量*2 血清	報告書 印字名称	HCG定量 血清	HCG定量 ECLIA法
			会計名称	HCG定量 血清	HCG定量 ECLIA
	2612	HCG (ヒト絨毛性ゴナ ドトロピン) 定量*2 尿	報告書 印字名称	HCG定量 尿	尿HCG 定量 ECLIA法
			項目略称 (ANK)	UHCG	UHCGEC
			会計名称	HCG定量 尿	尿HCG定量 EC
P.41	6731	IgG サブクラス IgG4	基準値	11.0~121.0 mg/dL	4.5~117.0 mg/dL
			最小 報告値	6.0 mg/dL 未満	4.5 mg/dL 未満
			所要日数	2 ~ 6日	5 ~ 10日
			検査方法	LA (ラテックス 凝集比濁法)	ネフェロメトリー法
			JLAC10	5A141-0000- 023-062-53	5A141-0000- 023-063-53
			基準値	κ鎖: 3.3~19.4 λ鎖: 5.7~26.3 mg/L κ/λ比: 0.26~1.65	κ鎖: 2.42~18.92 λ鎖: 4.44~26.18 mg/L κ/λ比: 0.248~1.804
			最小 報告値	κ鎖: 0.5 mg/L 未満 λ鎖: 0.5 mg/L 未満 κ/λ比: 0.01 未満	κ鎖: 0.5 mg/L 以下 λ鎖: 0.5 mg/L 以下 κ/λ比: 0.000
			最大 報告値	κ鎖: 9,999,000 mg/L 以上 λ鎖: 9,999,000 mg/L 以上 κ/λ比: 9,999,000 以上	κ鎖: 3,800 mg/L 以上 λ鎖: 3,200 mg/L 以上 κ/λ比: 7,500 以上
		報告形態	濃度: 小数点第 1 位 κ/λ比: 小数点第 2 位	濃度: 小数点第 2 位 κ/λ比: 小数点第 3 位	
P.104	3126	髄液一般検査*2 細胞分類	基準値	設定なし	リンパ球: 60%以下 単球様細胞: 20~30%以下 多形核白血球: 2~3%以下 (好中球・好酸球) (細胞数基準値内の場合)

※ その他の検査内容に変更はございません。

《変更理由》

- ・*1 は「抗てんかん薬 TDM 標準化ガイドライン 2018」(日本 TDM 学会 編) に添った変更
- ・*2 は検査体制見直しにおける変更
- ・上記以外は、委託先(エスアールエル、LSI メディエンス)における変更

● 受託中止項目

《最終受付日》 令和 2 年 3 月 28 日（土）まで受託

《中止項目》

総合 検査案内	検査 コード	検査項目名称		過去3ヶ月の 平均受託件数	代替項目
P.16	0399	鉛 (Pb) 尿		0 件/月	なし
P.22	4057	パラコート定量	血清		
	3995		尿		
P.32	1270	FGF-23			FGF23 【検査コード 0602】
P.35	2473	メタネフリン		4 件/月	メタネフリン分画 【検査コード 0133】
	2475	メタネフリン 2 分画 メタネフリン：M ノルメタネフリン：NM		51 件/月	
P.75	4676	EB ウイルス抗体 (EBV)	IgG	39 件/月	なし
	4677		IgM	24 件/月	

《中止理由》 委託先（エスアールエル、ビー・エム・エル）における中止